

義務教育の在り方ワーキンググループ論点整理（抜粋）

（令和5年3月 中央教育審議会初等中等教育分科会個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会義務教育の在り方ワーキンググループ）

令和5年8月24日
義務教育の在り方
ワーキンググループ（第8回）
資料 1-1

2. 学びの多様性

（3）学びにおけるオンラインの活用（※ここでいうオンラインの活用は、対面でのクラウド上の教材活用等は含まず、専ら遠隔によるものをいう）

問題意識や課題	主な論点
<p>【オンラインの意義・活用用途】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 山間地域や離島等の小規模校では、オンラインの活用により地理的・空間的制約を乗り越えることができ、協働的に学ぶうえで有効である。○ 人々の働き方や生活スタイルが多様化していることなどを踏まえ、学校規模以外にも、学びの充実という観点から、オンラインの活用用途は様々あるはず。○ オンデマンドや同時双方向型の授業への一斉接続だけでなく、固定的な人間関係を解消する観点からも、子供たちが個々の関心に応じて他校の子供と接続し、学びを深めるといった活用も考えられる。○ オンラインの活用用途に困っている自治体も多く、例えば不登校児童生徒や特別な支援を必要とする子供へのオンラインの活用について、実践事例の創出が必要である。	<ul style="list-style-type: none">○ オンラインの活用について、学びを行う者が置かれている状況や属性等を考慮し、遠隔教育特例校制度も含め、制度面や運用面の課題の整理と、柔軟な活用の在り方について検討することが必要。○ オンラインを活用した支援について、例えば実践・優良事例をまとめるなど、全国で共有する仕組みについて検討が必要。
<p>【義務教育におけるオンラインの活用】</p> <ul style="list-style-type: none">○ オンラインは今後更に当たり前のインフラとなる。学校に登校して学ぶというこれまでの原則に加えて、オンラインでの学びをどのように活用すると有効か、議論が必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none">○ オンラインでの学びと、学校に登校して学ぶこととの関係については、義務教育の意義を踏まえ、どのような状況下で、どのような子供を想定して考えるのか、整理が必要。

検討事項ごとの委員からの主な意見（抜粋）

(3) 学びにおけるオンラインの活用

(※ここでいうオンラインの活用は、対面でのクラウド上の教材活用等は含まず、専ら遠隔によるものをいう)

- 山間地域や離島等の小規模校において、オンラインを活用することで、遠隔合同授業を行った上で、遠足といった対面での合同の活動につながるなど、児童生徒数が少ない中であっても、多様な友達と出会い、様々な意見に触れ合うことで、協働的な学びにつながるという可能性があるのではないか。その際、オンデマンドや同時双方向型の授業への一斉接続だけでなく、固定的な人間関係を解消する観点から、子供たちが個々の興味関心に応じて他校の子供と接続し、学びを深めるといった活用も進めていくべきではないか。
- また、人々の働き方や生活スタイルが多様化しているほか、何らかの事情で義務教育を実質的に受ける機会が無かった方々もいることを踏まえ、学校規模以外にも、学びの充実という観点から、学び手や学校、地域等の個々の状況を踏まえたオンラインの活用について議論すべきではないか。その際、遠隔教育特例校制度も含め、制度面や運用面の課題を整理し、柔軟な活用の在り方について検討が必要ではないか。
- 多くの自治体では、オンラインの活用用途について困っている段階。不登校児童生徒や特別な支援を必要とする子供へのオンラインを活用した支援について、実践・優良事例をまとめるなど、全国で共有する仕組みについて検討することも必要ではないか。
- オンラインが、整備されていて当然のインフラとなる中で、学校に登校して学ぶというこれまでの原則に加えて、オンラインでの学びをどのように活用すると有効か、議論が必要ではないか。